

様式2 令和5年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価表

学校教育目標	人間尊重を基本理念に国際的視野にたち、平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘りつよい実践力をもった生徒を育てる／、健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる／、高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	○清瀬市立中学校の中で最も歴史があり、清瀬市民の多くの方が卒業し、地域から愛されるとともに地域との連携を学校運営の中心に据えた学校である。また、清瀬市立中学校において知的障害固定学級と情緒障害固定学級の2種の特別支援学級を設置する唯一の中学校として、特別支援教育の推進の中核を担ってきている。 ○令和5年度は、東京都教育委員会令和5年度不登校加配教員配置校として、登校の有無に関係なく、すべての生徒が安心して学ぶことができる学校づくりを目指し、実践研究をしている。
目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 1魅力ある学校 2活力のある学校 3信頼される学校 【目指す児童・生徒像】 ◎自分の考えに自信をもち、他を思いやりながら自己実現できる生徒 【目指す教師像】 ◎法の遵守と職務の厳正を徹底する教師、〇プロとしての自覚と使命感をもった教師、〇公務員としての社会性・協調性・コミュニケーション能力の高い教師		

前年度までの学校経営上の成果と課題

○成果:タブレットPCの導入により、ICT活用による学習環境が広がり、個別最適な学びと協働的な学びを目指すことができていること
●課題:新型コロナウイルス感染症対策に伴い、長きにわたって教育活動等が制限されたことにより、学校と保護者や外部機関とのつながりが希薄になりつつあること

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策(案)
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	授業に関するアンケートを定期的に行い、生徒の学習への関心度を把握する。	4	3	○経年変化を見て、分析後に手だてを講じることはよい。 ○生徒の回答を授業改善に反映してことが大切である。	○令和6年度も精査した統一項目のアンケートを行う。 ○次年度は、今年度の同時期にアンケートを行い、経年比較することも大切である。 ○生徒の意見が反映するアンケートについて、探っていききたい。
	各学期にタブレット活用月間を設定し、全教員にICTを活用した授業に取り組ませる。	4	4	○急速にCBT化が進む中、積極的に取り組んでいることはよいことである。 ○深い学びにつなげる学習内容にタブレットを活用していくことが必要である。	○家庭学習での使用については、課題が残った。次年度も効果的な活用について検討していく。 ○不登校で学校との関係が築くことが困難になっている生徒に対して、学校、教員、生徒同士等、人とつながるツールの一つとして活用していく。
豊かな心の育成	人権教育プログラムやいじめ総合対策【第2次・一部改訂】を使ったいじめの未然防止の授業を実践する。	4	4	○法教育の取組はともよい。 ○生徒のあいさつ等が消極的である。発達段階を見た時に、恥じらい等があり難しいと思うが、身に付かせたい行動ではないか。	○いじめ問題は、いつでも誰にでも起こりうる問題であることから、引き続き、いじめ問題に関する授業をきちんとを設定し取り組んでいく。 ○弁護士からの法をもとにした講話は、法教育も含めて大切な教育内容である。次年度も機会をとらえて実施していきたい。
	各教科や学校行事等において、他者とかかわる体験活動や学んだことを発信する活動を設定し、成就感を味わわせる。	4	4	日本海事広報協会と連携した職場体験、新聞社からの支援によるNIE、釜石市いのちををつなぐ未来館との防災教育等、昨年度始まった活動に新たな視点を加味した活動は、教職員・生徒で達成感につながった。	○企業と連携した職場体験や花の学び舎プロジェクト、防災教育、NIE等で得たことをもとに、令和6年度も生徒が主体となった活動に意欲的に取り組んでいく。 ○地域の人々や関係団体との関係を密にしながら、生徒が社会参画できることを探っていききたい。
健やかな体の育成	保健体育の授業や部活動、体育的行事の指導改善により、生徒の体力向上を行う。	3	3	○小学校においても体力向上に対する児童の意識を向上させるために、学校ギネスを実施している。効果のある取組を小・中で共有できるとよい。	○コロナによる運動制限の影響は長期的に取り組んでいく必要があることから、引き続き、段階的に、計画的に取り組んでいく。 ○「運動する」ことに着目するだけでなく、「健康」に視点をあて、生徒自らが健康管理に向き合う取組を行っていく。
	健康に関するアンケートを定期的に行い、生徒の健康への関心度を把握する。	4	3	○「体を動かすことが好き」の回答が5割程度という実態は大きな課題である。 ○改善策を講じて、すぐに数値が向上することは難しいが、楽しんで体を動かすことができることの実践に期待したい。	○生徒の実態を把握することはできたが、改善策の立案と分析までには至らなかったため、継続してアンケートをとる中で、結果分析と対策を講じていきたい。 ○次年度は、今年度の同時期にアンケートと経年比較していきたい。
特別支援教育の充実	学校行事や生徒会活動、部活動等の交流を充実させるとともに、授業のユニバーサル化に基づいた共同学習を推進する。	4	3	○交流及び共同学習の充実はとても大切である。 ○次年度は、知的固定学級の閉級もあることから、さらなる取組の充実を期待したい。	○特別支援教育の理解をさらに推進していくために、生徒の交流を充実させていく。 ○知的固定学級の閉級に伴い、環境の変化が予想されるので、令和7年度を見据えた活動を実践していく。
	清瀬第二中学校・清瀬第三中学校の3校交流を計画・実施する。清瀬特別支援学校との交流を計画・実施する。	4	4	12月に清瀬特別支援学校との展示交流を、2月に清瀬二中・清瀬三中とのポッチャ交流を行った。初めての他校との交流には準備や計画時間を要したが、生徒にとってよい取組になっている。	○展示交流やポッチャ交流にとどまらず、効果的な交流がどのようなことがあるのか、探っていききたい。 ○個に応じた教育の充実が一層図れるよう、教員同士の指導に関する情報交換会等の交流も展開していきたい。
本校の特色	地域関係者やボランティア等からの支援を持続的な体制にするとともに、学校図書館が交流の拠点となる取組を実践する。	4	4	学校支援本部ときよせラボの協力の下、学校図書館を活用した取組を充実することができた。家庭と子供の支援や退職教員ボランティアを含めた地域の支援体制を強化していく。	○学校運営連絡協議会等に意見をいただきながら、次年度は、コミュニティスクール運営に向けて、整備していく1年としたい。 ○学校図書館は「心に寄り添う図書館」として、地域とともに運営していきたい。
	ホームページの年間アクセス数を前年度比10%増加させる。	3	3	ICTの活用の過渡期であるため、校務支援システムと紙媒体とHP、メールの住みわけの難しさを感じている。情報がうまく伝わっていない時もあるので、今後も家庭等に混乱がないよう、注意して対応していく。	○時機を逸することなく、令和6年度も学校の情報を積極的に発信していきたい。 ○プリント、メール、HPと、様々な発信ツールがある中で、効果的な方法で発信していくことを探っていききたい。